

中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<17>

先日、倉吉市内で、農業も化学肥料も全く使用しない「奇跡のりんご」の栽培に成功された、青森県の木村秋則さんの講演がありました。木村さんは、農業などに頼らない「木村式自然栽培」を力説され、日本の野菜は中国産野菜より安全とはいえず、子どもたちの健康に影響することなどを話されたそうです。

現在の農業は、大別して▽有機栽培農家▽減化学肥料や減農薬で栽培する農家▽従来型の化学肥料と農薬を使った農家の3種

秘めた力

類あると思います。農業を取り巻く経営環境は、決して楽ではありません。しかし消費者が求めているのは、安全・安心な農作物です。

前回もお話ししましたが、中海の海藻肥料には「物語」があります。「奇跡のりんご」とはいかないまでも、何百年と使われてきた歴史があり、他の肥料

農作物に海藻肥料寄与

との組み合わせも可能で、新たな地域ブランドを市場に出すことができ、なせ、未来守りネットワーク

未来守りネットワークが普及に取り組んでいる海藻肥料(手前)と、海藻肥料で育てたネギ畑



ークが海藻肥料(ミネラル海藻)活用に組み込まし、たのかを少しお話しします。

2003年、未来守りネットワーク設立前に中海の歴史を調べ、年間5万7千の小の海藻類が肥料と寒天材料として採取されていたのを知り、特に肥料に着目しました。アマモ、コアマモなどについて勉強すると、海藻類が中海の水質浄化に寄与していたことも分かりました。

その結果、使用して1年目、1年目より2年目と農

未来守りネットワークの理事は、山(日南町)川(伯耆町、米子市)海(境港市、松江市美保関町)す。先人の知恵を利用したから選出しています。水は上流から下流に流れ、窒素、リンなどを含む農業排水、家庭排水が最終的には海へ流れ込みます。こうし

未来守りネットワーク 理事長・奥森隆夫

次回は1月15日に掲載